idea

ニュースレター「イデア」

2019. 9

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　生活支援コーディネーター　佐藤伸さん
3｜団体紹介｜　NPO法人わかば会
5｜地域紹介｜　東山郷自治会（大東）
7｜企業紹介｜　佐々木製籠店（千厩）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　なぜ一関市は地域協働を語り始めたのか？
9｜センターの自由研究｜　巨石調査ファイルNo. 4「立石」

今月の表紙

今月の自由研究は大好評の巨石企画第4段！大東町興田の巨石をご紹介していますが、市内には紹介しきれないほどの巨石がまだまだたくさん。表紙の巨石は室根町津谷川の「八人ばらし」と呼ばれる巨石です。巨石情報は引き続き募集しております♪

二言三言

135 / 116,023

佐藤 伸

平成28年度に生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）に就任。花泉・川崎・藤沢地域を担当しています。

前職で培った介護福祉に関する知識や経験も活かしながら、高齢者の方の生活相談を受けたり、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するための支援体制づくりなどに取り組んでいます。

第63回　生活支援コーディネーター　佐藤伸さん × いちのせき市民活動センター センター長　小野寺浩樹

高齢者の生活と地域を繋げる
～全ての地域に高齢者が安心できる場所を～

2025年には75歳以上の高齢者が全国で2000万人以上になることが予想されていることに伴い、国では地域の実情に応じて柔軟かつ効率的に介護サービスが提供できるよう、地域主体の取り組みを支援する事業を制定し、支援者として各自治体に「生活支援コーディネーター」を配置。市内には4人が配置されており、その一人である佐藤伸さんに、活動や事業内容についてお伺いしました。

小野寺　まずは、生活支援コーディネーター（以下「SC」）とは何か教えてください。

佐藤　私達SCは、地域の高齢者が住み慣れた地域でずっと安心して生活するための支援体制づくりをお手伝いしています。皆さんから地域のニーズや悩みなどを伺い、それをサービスに繋げる「繋ぎ役」の役割というか。

小野寺　地域コミュニティでいうと、「地域にこんな高齢者がいる」だとか「生活に苦労しているようだ」とか、自治会長さんや民生委員さんなどがそのような悩みで困った時はSCに相談してくださいということですよね。SCは「高齢者の生活相談を専門的に受ける役割の方」といえばわかりやすいかもしれません。

まだ知らない方が多いかと思いますが、この制度はいつ頃から始まったものでしょうか？

佐藤　国では平成27年度から始まり、一関市では翌年の28年度から始まりました。私の場合は前職で介護予防教室を担当していたので、最初の2年間は担当地域の各行政区で行っている介護予防教室をもう一度見て回り、地域の課題を細かく探したり「事業の説明をしてほしい」という依頼を受けたり。

小野寺　制度が切り替わる時期でしたからね。始めの頃は、介護予防教室を回りながら地道な宣伝活動をしていたんですね。

その頃に見えていた課題とはどんなことですか？

佐藤　今と同じで「移動」に関する課題がありましたね。介護予防教室の会場（集会所など）に行く手段がないとか。あとは一人暮らしの高齢者の見守りについて。見守り自体は意外とできているのですが、いざ何かあった

時にどうするかとか、もっと踏み込んでいく場合には、一個人や市民だけでは難しいし限界があると感じました。

小野寺　見守りはできるけど、それ以上の専門領域になると線を超えられない。なのでそういうところでもSCなどの専門分野の方々が必要ですよね。

もう一つ伺いたいのが、「介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）」とはどんなことでしょうか？

佐藤　今まで介護事業所だけが行っていた介護予防のデイサービス（通所型サービスB）とヘルパー（訪問型サービスB）が、地域でもできるようになるという事業です。ハードルが高いように聞こえますが、要は地域が通常で行っている介護予防教室やふれあいサロンの回数を少し増やすというイメージです。

小野寺　実は市内ではもう行っている地域があるんですよね。

佐藤　訪問型サービスBはまだないですが、通所型サービスBは、花泉地域で6か所、一関地域は4か所、大東・藤沢地域では各1か所が行っています。私達はこの「地域に居場所をつくる」ためのお手伝いもさせていただきます。

小野寺　介護事業所のデイサービスは色々な地域から利用者が集まりますが、ある意味知らない人達の集まりですよね。でも地域でそれが行えれば、いつも地元の人達と一緒だし、身近で通いやすいし。今まで住み続けてきた地域の中に居場所がつくれてサービスを受けられると。

佐藤　市民センター単位だと「距離が遠くて行きにくい」という方もいらっしゃいますので、もう少し小さなコミュニティで居場所がつくれればと思います。ですが、将来的にはその上の地区単位での活動も必要になってくると思いますので、その時は各地域協働体との連携は必要ですね。

小野寺　そうですよね。地域の状況は常に変化しますから、その状況をキャッチし柔軟に対応できる協働体であってほしいですし、SCと地域協働体がパートナーとなり連携できるように。

何だかんだ言って、地域の色々な課題の根源には「コミュニティの希薄化」があるんでしょうね。昔は食べ物に困れば近所の方が「うちでご飯食べていがい」と誘ってくれたり、皆で世間話をし合う社交場があったり、知らない人にも当たり前に挨拶していたし。今では、それがなくなってしまいましたからね。

佐藤　そういう社会をもう一度つくるのは無理だとしても、高齢者だけでもそんな生活ができればいいなと。

小野寺　生活支援はそういうところを目指しているんですよね。孤立を防ぐとか関係づくりとか、そんなセーフティネットの役割もあるんですよね。

佐藤　「介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）」を行っている地域では、それができつつあります。そこで知り合う前までは、その一人暮らしの高齢者を誰も知らなかったとか、仲良くなって普段の交流もでき、怪我をした時はゴミ出しや買い物を代わりにしてあげたとか。ほかには、他の家との繋がりが一切なく「人と関わることが嫌な人」だと周りから思われていた方を民生委員さんが誘い出すと、生前に「（介護予防教室に）行って良かった」と兄弟に話していたみたいで。

小野寺　そのように地域での必要性を理解してもらえれば、覚悟をもって取り組めるし、つくった時の納得度は高くなるでしょうね。でも途中で道を間違えたり、担当の方や方針が変わることもあるでしょうから、その時は「こっちだよ」と道を戻してあげる伸さんのような役割の人が必要ですよね。

一関市長寿社会課（SC連絡先）
住所　一関市竹山町7-2
電話　0191-21-8370

団体紹介

ＮＰＯ法人わかば会

平成 21 年に設立。「保健・医療・福祉の増進を図る活動」と、「保護観察委託（更生保護の自立準備ホームの運営）」という 2 本柱を中心に、福祉充実の社会に寄与することを目指しています。

〒021-0041 一関市赤萩字清水 110-4
TEL 0191-25-4117

左の写真：下宿の利用者さんと集合写真

辛抱の木に花が咲く

ＮＰＯ法人わかば会

わかば会の取り組み

障がい者・高齢者の住みやすい暮らし支援と、農業などを通じた就業訓練支援、更生保護の一環である自立準備ホームの運営を行ってきたＮＰＯ法人わかば会（以下「同会」）は、この４月から新たな事業として、障がい者や高齢者を受け入れる下宿を開設し、その運営を行っています。今回は理事長の佐藤良明さんに、同会の取り組みやその背景、想いなどを伺いました。

佐藤さんは「会を立ち上げた背景には農福連携の考えがあった」といいます。金ケ崎町の農業大学校を卒業した経歴を持つ佐藤さんは、農業を通じ障がい者などの就労や訓練に繋げようと、米や野菜作りを開始。

また、「人間にとって衣食住の中でも、特に『食』と『住』は大事」と語る佐藤さんは、常にアンテナを高く張る中で、岩手県のホームページから自立準備ホーム（刑務所や少年院を出所した人が自立できるまで一時的に住むことのできる民間の施設）の募集情報を見つけ、これに着目。更生保護という視点から受託を決意し、再犯防止や更生支援で社会貢献に取り組むことに。

こうして２本柱で活動していた同会ですが、ほどなく待ち受けていたのは東日本大震災でした。風評被害などもあり、農福連携事業はわずかな期間で佐藤さん曰く「アウト」になったのだとか。

以降、自立準備ホーム事業のみを細々と（約10年で７人を受け入れ）継続する形の同会でしたが、知人からの「障がいを持つ高齢者の下宿先を引き受けてほしい」という依頼をきっかけに、今年の４月から一関で下宿を開設。調理師免許を持つ佐藤さんが朝夕の食事作りも担当し、現在５人の下宿人の『食』と『住』を支援しています。同会は他にも成年後見人制度やＬＧＢＴ（性的少数者の総称）、納骨に困っている人など多様な『相談支援』という動きも見せ始めています。

gallery -

下宿

空き部屋の１室。テレビや照明器具をＡＩアシスタントで管理したり安否確認にも活用できるＡＩ化も見据えています。

「まかないじいさん」

自らそう名乗る佐藤さんは調理師免許も持っており、下宿の朝晩の食事は佐藤さん自ら腕を振るいます。

立場を置き換えてみる

同会の、障がい者、保護観察対象者への支援について佐藤さんは「誰だって好きで障がいを持っている訳ではないのに、世間の障がい者への見方は決してポジティブとは言えない。人間誰しも完全ではなく、強いところ、弱いところがあって当たり前で、障がいはその現れ方の1つにすぎない。もし自分が障がい者だったら、自分の家族が障がいを抱えていたら、と考えることができれば、障がい者がもっと住みやすい社会になるのではないか」「保護観察対象者にしても、多くの場合自ら罪を犯そうとした訳ではないし、1回（刑務所や少年院に）入って中の辛さが身に染み、もう戻りたくないと思っている。自立を支援することは本人の更生、社会復帰だけでなく、再犯防止という形で社会貢献にも繋がる。ハンドルを握るだけで加害者にも被害者にもなり得る時代だからこそ、更生につきまとう既存概念（漠然とした不安感など）の壁を乗り越えなければ」と、想像力を働かせて立場を置き換えて考える大切さを訴えます。

革靴を履いて現れた人物

同会は、福祉をはじめとした様々な既存の制度の網から漏れ、制度の隙間で生きている人の相談支援の場でありたい、そして「辛抱の木に花が咲く（辛抱してやり続けるときっと実を結び綺麗な花を咲かせる）」という思いで、時に事業に、時に制度を含め多様な問題について『学ぶ』という形の活動に、取り組み続けています。

取材の際、「子どもの頃鉄腕アトムを見て想像した未来がもう現実になっている」という佐藤さんが、誰もいないテーブルに声をかけると音楽が流れ始めました。「こうしたAIアシスタントを部屋に設置すれば、単に音楽だけではなく、独居老人などの安否確認などにも活用できる。AIアパートのような形に今の下宿もしていきたい。これからはAIの時代」と、ここでもアンテナの感度の高さを感じさせられます。

そしてこんなエピソードも。ある日身なりを整え革靴を履き「お陰様で正社員として就職が決まりました」と報告に来た方がいたそうです。その時ビニールの靴を履いていた佐藤さんは「俺より良い靴履いてんじゃねーよ」と突っ込みながら笑顔で迎えました。そう、革靴を履いて現れたこの人物こそ、7人の中で最初に自立できた方に他なりません。

あなたの大事にしている言葉は？

理事長

佐藤良明（さとうよしあき）さん

「基本的」の「基」が「期」になっているのは、月（→ツキ→ラッキー）を付けて、「良い運がつく基本的人権」というニュアンスを込めているからだそうです。

職員

山口宏子（やまぐちひろこ）さん

陰に日向に佐藤さんを支え、共に下宿を切り盛りする山口さん。なくてはならない存在です。

- Photo

みんなで夕食

下宿では朝晩決まった時間にみんなで食事をいただきます。この日はテレビで高校野球を見ながら盛り上がっていました。

様々な人の助けに

壁には「LGBT」「心理療法カウンセリング」「ハンディキャップ・高齢者」など、様々な対象者を受け入れるPOPが。

集落内各組織との協力・連携で無理のない活動を

東山郷自治会

大東町渋民出身で、国内の刑法思想の根本原理を論じた「無刑録」の著者である芦東山の生誕集落であることからその名を用いて、平成6年に東山郷自治会を発足。51世帯、185人が暮らしており、5つの専門部（納税部、生活環境部、体育部、女性部、自警団（防災部））を組織しています。

左の写真：今年37回目を迎える自治会運動会
（写真は昨年の開催の様子）

大東 東山郷（とうざんごう）自治会

交流ではなく、その後の関係性を築くきっかけに

今回お話を伺ったのは、東山郷自治会（行政区は渋民9区）で、自治会長歴3期6年目の小崎盛人さんと、初代自治会長であり、現在は区長4期7年目の及川紀夫さんのお2人です。

同自治会館は、自治会組織を発足する以前の昭和45年、大原病院の材木を譲り受け建設、昭和62年現自治会館を新築し、住民の集いの場として活用してきました。昭和58年、当時の大東町から健康づくり模範集落に指定され、健康づくりの一環として自治会運動会を開催、現在まで引き継がれています。

「人集めに苦労する部分もありますが、何かしようとする時は協力的な集落です」と語る小崎さん。「いつでもどこでも協力しなければならないという環境よりも、個々が無理のない範囲でやりたいことに協力できる環境であったほうが活動に関わりやすいと思うし、そういった環境づくりをしていくのが我々役員だと思う」と続けます。

長年継続している自治会運動会は、高齢者と子どもたちが楽しめる競技を中心として、その応援に親世代（若者層）が加わり交流がもてる仕組みにしています。及川さんは、「当自治会もご多分に漏れず高齢化が進んでいます。当時一生懸命に集落を盛り上げようと奮闘した若者たちは高齢者の仲間入りをしています。自治会行事の多くは『若者と高齢者の関係づくりの場』として、交流というよりも関わる時間、きっかけづくりそのものを大切にしています」と語ります。

横の繋がりを強化し、協力し合う

中山間地域に位置している同自治会は、兼業農家世帯が多く、自治会組織のほか農家組合組織等と協力して活動しています。

「それぞれ組織の役割は違うものの、地域づくりという観点で協

gallery -

女性部の活動

おさなぶり温泉ツアーやミニ敬老会、料理教室などを企画。料理教室では、伝統的なおせち料理を学び、腕に磨きをかけました。

東山郷福餅つき隊

今年7月に開催された大東町福祉まつりでの一コマ。餅つき歌に合わせて、餅を「つく人」「返す人」息もピッタリ。お揃いの法被姿で気合も十分です。

し合いながら進めています」と語る小崎さん。特に農家組合組織内の有志で立ち上げた「東山郷福餅つき隊（以下、「餅つき隊」）」は、「集落の自慢の1つ」だと続けます。

米の消費拡大を狙うと共に、大東町の餅文化と餅つき歌を継承すべく農家組合役員を中心に構成し、集落民の家庭で眠っている臼や杵を譲り受け平成14年に結成。餅つき隊は、同自治会主催の「東山郷夏祭り」への参加をはじめ、渋民文化祭や他地区でのイベント、結婚式などのお祝いの場など、広範囲で活動しています。

東日本大震災後は陸前高田市の仮設住宅へ出向き、「少しでも皆さんの元気の源になれば」と餅つきとお振る舞いを実施。3年ほど継続した中で、「被災地の方々の笑顔が増えた気がして嬉しかった」と、及川さんは当時の写真を見つめながら振り返り、「餅つき隊はおかげさまで各所からお声がけをいただいています。無理をせず、その時に参加できる人が隊員として活動することが長続きの秘訣かな」と語りました。同自治会が活動の原点にもしている「個々ができることを無理のない範囲で協力する」という環境や雰囲気が地域にあり、ゆとりのある協力・連携の形ができているように感じました。

子どもたちへの継承も地域ぐるみで

餅つき隊も参加している「東山郷夏祭り」は同自治会の夏のメインイベントで、毎年、帰省客への「おもてなし」の気持ちも込めてお盆の8月15日に開催しています。各部会が持ち回りで出店を担当しており、「小さい集落ですが、この時ばかりは多くの人で賑わいます」とお2人の言葉が重なります。特に夏祭りを盛り上げるのは、自治会員で組織する「東山郷太鼓組」による太鼓演奏です。「子どもから大人までが太鼓を通じて交流を深めること」を目的に、餅つき隊同様、地域内外の各種イベントに引っ張りだこです。太鼓指導者は高齢となったため引退し、現在はメンバー同士で技術を磨き上げ、地域ぐるみで子どもたちへ継承しています。

最後に、小崎さんは「特別なことは何もしていませんが、集落内の各組織としっかり協力・連携することも自治会の役割だと感じます。地域皆で支え合っている集落ですよ」と語り、及川さんは「若いときは『自治会活動なんて』と思う気持ちもよくわかります。しかし歳を重ねるにつれて、『その時期』は来ると思うので、強制ではなく『今自分ができる関わり』を大切にしてもらえたらいいですね」と語っておられました。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

小崎盛人（おざきもりと）さん

大東町大原出身。ご縁あって渋民へ。仕事の定年を迎え、区長とともに、朝の通学バスの見送りが日課。子どもたちの笑顔に元気をもらっています。

区長

及川紀夫（おいかわのりお）さん

大船渡市出身。十数年単身赴任する中でも地域には若い頃から深く関わりをもち、40代で初代自治会長に就任。東山郷自治会の名付け親でもあります。

- Photo

自治会館前のお知らせ掲示板

現在の自治会館は昭和62年に建てられました。会館脇にはお知らせ掲示板も設置され、自治会のお知らせや会館利用状況がわかるようになっています。

子ども達から見た「東山郷」

渋民市民センターが主催している秋の文化祭では、集落の子ども達が撮影した「東山郷の良いところ」の写真展示を行っています。子ども達は、区長の及川さんと共に集落を歩き、自由な発想で地域を写真に収めます。

千厩

佐々木製籠店（せいろうてん）

千厩町にある佐々木製籠店は、佐々木伍介（ごすけ）さん（二代目）の父（初代）が、15歳で旧弥栄村の竹細工職人に弟子入りし、数年の修業後、地元千厩町で独立。店舗を構えず、当時は交通手段も少ないため、農家などに1か月程度住み込みをしながら、近辺集落で必要な竹籠などを製作していました。現在は伍介さんの息子さんである三代目の佐々木博典さんが、その技を継承し若者の目線でその技術や製品の魅力を発信しています。

受け継ぎたい・伝えていきたい竹細工の魅力

父から子へ　子から孫へ

戦前、竹を加工したり、竹ひごを編み込んで細工物を作ったりする竹細工は、農業や家畜業、家庭の日常生活で重宝され、生活の必需品となっていました。戦後、高度成長期と共にステンレスやプラスチック製のザルや大きな入れ物が主流となってからは、その需要が低迷し、受け継がれてきた技が全国的に衰退しつつありました。

「いずれこの仕事はなくなるだろうと思っていた」と当時の状況を振り返るのは、佐々木製籠店二代目の佐々木伍介さんです。幼い頃から父親（初代）が作る竹細工に興味を持ち、小学生の頃に父親の手伝いをしながら技術を学んだ伍介さんは、竹細工の視野を広げるべく神奈川県や青森県で修業を積み、昭和47年に住宅兼工場である「佐々木製籠店」を現在の場所に構えました。「田舎なので、その年代の頃はまだまだ竹細工の需要はありましたが、平成に移り変わってからは、この地域でもプラスチック製や輸入品が増え始めその需要は年々衰え始めました」と語る伍介さんは「私は籠づくりが好きだから」と、閉店することなく地域の少ない需要に応えながら竹細工業を続け、今その技術が息子へと引き継がれています。

生活用品から、伝統工芸品へ

三代目の博典さんは、高校を卒業後、地元企業に就職し観光写真カメラマンとして従事していましたが、社会経験や多くの人との関わりの中から「伝統の技を失くすのはもったいない」という思いが強まり、平成29年に父の後継者として技を磨くため退職しました。

「今も昔も変わりなくお客さんから店頭などで注文をいただき、その用途や大きさをヒアリングした上で一つ一つ製品を作り上げていますが、竹細工は今『伝統工芸品』として注目されつつあり、日常生活用品というよりもインテリア・装飾品という形で用途が変化している部分もあります。しかし、製作する技は昔から変わらないんですよ。ずっと引き継がれてきたものなのです」と、博典さんは父の伍介さんを見つめて語り「1つの製品を仕上げるにはかなりの集中力が必要です。父は87歳と高齢になり、昨年体調を崩したこともあって長時間の製作は体に負担がかかることから、今はアドバイスをもらいながら引き継いでいるところです」と続けます。

博典さんは、これまで同様、昔からのお客様も大切にしながらその要望に沿った竹細工製品の製作に取り組んでいますが、「竹細工の技術・製品を多くの人に知ってもらいたい」という想いから、工場見学の受け入れや企画展（イベント）などへの参加で、同業・異業種間交流やお客様との交流など積極的に活動を展開しています。最後に、「今後は籠だけではなく、大型実用品（椅子など）にも挑戦したい」と語っていただきました。

1 三代目佐々木博典さん（左）と二代目の伍介さん（右）「息子が継いで嬉しい」という一言が印象的

2 山で竹を伐り、割（製品にもよりますが約1mmの薄さ）、しならせ、細工という工程で、一つ一つが手作業

3 竹は親戚の山に自生する真竹を使用

DATA

〒029-0803
一関市千厩町千厩字前田85-1
TEL／FAX：0191-52-3230

今月のテーマ

なぜ一関市は地域協働を語り始めたのか？

博識杜のフクロウ博士

第６話

一関市が協働によるまちづくり宣言をしたのは、平成 20 年（2008 年）。平成の大合併により 1 市 6 町村で新一関市（その後、平成 23 年 9 月 26 日に藤沢町が編入合併）になってから、3 年後の出来事です。

合併特例法に基づき、旧 6 町村の区域に設置された地域自治区が平成 20 年 3 月 31 日にその期間を満了し、**市域が広くなった一関市に新たなまちづくりが必要になったことから協働によるまちづくりを宣言**したことに始まります。

浅井市長、各地域自治区長らが出席し行われた満了式

6 地域自治区設置期間満了

さらなる発展を誓い満了式

新市誕生以来、合併特例法に基づき旧6町村の区域に設置された地域自治区は3月31日、その期間を満了し、同日、市役所本庁で満了式が行われました。

式には田野崎徳吾・花泉、小山隆人・大東、菊地宏雄・千厩、佐藤久耕・東山、小山寛・室根―の各地域自治区長（千厩・川崎地域自治区長は都合により欠席）と、浅井市長ら三役、教育長、各部長、各支所事務長らが出席。浅井市長は「各地域自治区長には、市民の先頭に立って新市のまちづくりの礎を築いていただき、感謝申し上げる。今後一層、市民との協働の積極的な推進と一体感の醸成を図り、市の発展に努めたい」とあいさつしました。

各地域自治区長は「市町村は民主主義の学校といわれる。住民が民主主義を勉強できるような歩みを」（田野崎氏）、「職員が市民への思いやりの心を一層持って、協働のまちづくりに向けた取り組みを」（菊地氏）、「12万余の市民が心を一つにして、市が大きく飛躍するよう願う」（佐藤氏）、「この2年半は合併のソフトランディング期間。合併にバックギアはない。一層の前進を」（小山氏）など、在任期間を振り返りながら、今後のまちづくりへの期待を述べました。

広報いちのせき　平成 20 年 4 月 15 日号

平成 17 年（2005 年）9 月 20 日の大合併から地域自治区廃止までの 3 年間は、新市の基盤構築のための時期で、地域住民からすると合併しても何も変化がなく、むしろ市域が広くなりすぎて「**自分たちの声が行政に届きにくくなったのではないか？**」と不安感が募り、**「住民自らが地域づくりを積極的に行わなければいけない」という機運の高まり**があったのを覚えています。協働宣言をしてすぐに「協働」が進むわけではなく、「市域が広くなった一関市だからこそ必要なことは？」「行政の役割は？」「地域の課題は？」「地域の役割は？」など地域と向き合い共に考えるために、一関市は「34 地区公民館単位での市民協働推進懇談会」、「協働のまちづくり推進職員研修会」、「協働のまちづくりワークショップ」を開催。「**協働**」という馴染みのない言葉に戸惑いながらも、**行政と市民が話し合いを重ねながら**魅力あるまちにするために一関スタイルの「協働」の模索から取り組み始めました。

その後、具体的な市の協働施策を検討するために「協働推進アクションプラン検討委員会準備会議」を発足し、本会議で検討する内容を協議し、平成 21 年に行政委員（35 人）と市民委員（35 人）の 70 人委員会で「協働推進アクションプラン検討委員会」を組織し、具体的な検討を開始。アクションプラン検討時から行政と市民が対等に話し合いをすることを意識し、行政側事務局（当時の「協働推進課」、現「まちづくり推進課」）と市民側事務局（当センター）とで事務局体制が偏らないように整えて検討を進めました。この時の合言葉を「**急ぐな**」としていたように、結論を急ぐのではなく、委員が納得する「協働」を考えることとし、プランの策定に 2 年間という期間をかけています。

なかでも一番時間をかけて議論したのが“**協働の定義**”です。

一関市の協働の定義は、「協働の主体である市民組織、企業、行政がお互いの立場を尊重し、公共的・公益的な活動を継続的な話し合いと合意により、協力して行動すること」としていますが、一言で説明すると「継続的な話し合いと合意形成」。なぜ、**話し合いと合意形成**なのでしょうか？

これまでは、行政の施策で地域に働きかける取り組みがあり、地域からは課題があると行政へ要望や陳情を申し出ることにより取り組みに繋がるという構図がしばしばありましたが、果たして市域が広くなった新市において、その取り組み方が当てはまるかを考えた時に、**ある行程が抜けていることに気づきました。それが、「話し合い」と「合意形成」です。**これまでの取り組みは、行政も地域も一方通行であり、課題の共有も目的の共有も成果の共有もありませんでした。これからの時代を考えると少子高齢化も進み、人口減少も進むことから、人もお金も限られた中で地域運営をしなければ地域の持続性は乏しくなるため、何かに取り組むためには話し合いを行い、プロセスを共有し、その結論に納得を生み出してから具体的な行動に移すことが必要と結論づけたのです。

一関市の地域協働が目指したことは、**持続可能な地域運営のために「話し合い」を行い、「納得」しながら行政と地域が一丸となって取り組んでいくこと**。すなわち、地域の声が施策に反映されること、行政による市民サービスの満足度が向上することを願って、新市としての新しいまちづくりに取り組み始めたのです。

センターの自由研究

ミッション 37

巨石調査ファイル No.4「立石（たていし）」

昨年から続いている人気の（？）**『巨石』シリーズ第４段**！読者の方から**「大東町興田地区に『立石』という巨石がある」**という情報をいただき、いざ現地調査へ！
同地域は、周辺にゴロゴロとした大きな石が転がっているのをよく見かけますが、比較にならないほど大きな石が蓬莱山（ほうらいさん）にあるということで、今回も体を張って調べてきました！※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果ですので、多少の誤差等はご了承ください。

マップ作りをきっかけに!?

『立石』について情報提供をいただいた背景には、興田地区振興会の教育文化部会が作成した「興田まっぷ～神社・仏閣・史跡編～」が大きく関わっています。

昔は小学校の授業などで地元の文化財等に触れる機会が多かったそうですが、最近は昔に比べてその機会が少なくなり、また、地域の方から「興田の良さが知られていない」という意見が寄せられたこともきっかけに、興田の文化財等を紹介するマップを作成することに。

部会員が、マップに載せる文化財等を全て現地調査したところ、〝鳥海三名石〟の１つ、**『立石』が圧巻の大きさ**だったため、当センターが発表した「**巨石ランキングトップ10**（平成31年1月号掲載）**の順位を塗り替えるのでは!?**」と、期待を込めて情報提供してくださいました。

名石と言われている立石の調査にご協力いただいたのは、西丑石行政区区長 武田文一さん、丑石自治会会長 佐藤真由美さん、興田地区振興会事務局 千田秀明さんの３人です。調査前に「立石までの道のりはとても険しく、熊などの野生動物が暮らす道を通るので１人で行くのはとても危険」というお話を伺い、思わず不安に襲われましたが、それ以上に**どんな巨石が私達を待っているのか**・・・高鳴る気持ちを抑え、突撃調査してきました！

蓬菜山の中で発見！立石調査の裏側

大東町鳥海地区にある蓬菜山の標高は787m。
春はツツジ、秋は紅葉と四季折々に変化する自然の景色を楽しむことができます。
蓬菜山の中腹で、長い年月、地域の人を見守るかのように静かにたたずんでいる“**立石**”。
そんな立石をご紹介する前に調査の裏側をどうぞご覧ください。
※地元の方の同行のもと取材をしています。１人では決して山には入らないでください。

蓬菜山の麓から

①いよいよスタート！

上写真：
右から千田さん、佐藤さん、武田さん。
３人の頼もしい後ろ姿を見ながら、蓬菜山を登ります。
武田さんが道に迷わないようにと目印を作ってくれました！（右写真）

②難所ポイント

スタッフを探せ！

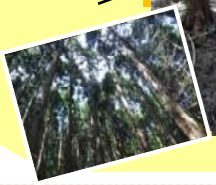
下写真：
１人ずつしか通れないくらいの狭い道が目の前に。順番をしっかり守って慎重に進みます。

③巨石！？を発見

上写真：
途中で大きな石を発見！しかし、地元の人にとっては「**石ころ同然**」という話をされ、かなりの衝撃を受けました。

④険しい道が続き…

あとちょっと…



下写真：
険しい道が続きますが、『立石』まであと少し！雑木林の間からは、優しい光が差し込みます。

NEXT ページ！

辿り着いた先には・・・

山登りを始めて40分程・・・**ついに立石が姿を現しました**。立石を見た瞬間、あまりの大きさと存在感に圧倒され、私達スタッフは息を呑みます。そして驚いたのが、ほぼ垂直な平面。「何か鋭い道具で割ったのでは!?」と思うほど、キレイに整っています。同行者の3人によると、「人の力で石を割ったような痕跡はなく、雨風などによって削られたのではないか」と考えられているそうですが、本当の成因は謎に包まれたままとのこと。また、立石の傍らには石が積まれ、何かを書いたような跡がある木片が立っていますが、こちらは「立石は昔、神仏か何かを祀っていた可能性があるかもしれない」と話しながらも、本当の理由は謎のままということでした。聞けば聞くほど、謎が深まる「立石」に心が惹かれていきます。

①：立石とスタッフを比べてみました！
②：キレイに整っている平面
③：立石の側にある石と木。これは一体・・・。

〝鳥海三名石〟とは？

冒頭に、立石は〝**鳥海三名石**〟の1つとお伝えしましたが、「**残り2つの名石は一体何？**」と気になっている方もいるかと思いますので、ここでご紹介します。

鳥海三名石については、興田に古くから伝わる『鳥海風土記』（明治5年）、仙台藩の『封内風土記』（明和9年）に記述が残されています。1つ目の名石「**鬼石**」は、田原峠近くの尾根の上、標高約630mの所に石群があり、それが鬼の角のように見えるため鬼石といわれています。2つ目の名石「**牛石**」は、正法寺（奥州市水沢）の和尚が畑にあった巨石が牛が寝ている形に見えたので牛石と名付けたようです。そして、3つ目の名石が今回調査をした謎多き「**立石**」です。特に由来等はないようですが、大きくたたずむ姿から「立石」となったのではないかといわれています。

「立石」は第4位にランクイン

今回の調査により、**「巨石ランキングトップ10」**（2018年「idea12月号」掲載）を更新！

「立石」は室根の「屏風石」と同率第4位に順位付けさせていただきます。

順位	名称	地域	高さ
1位	大猊鼻岩（だいげいびがん）	東山町	124m
2位	大部ヶ岩（だいぶいわ）	舞川	48.5m
3位	立石神社（たていしじんじゃ）	藤沢町	17m
4位	屏風石（室根）（びょうぶいし） 立石	室根町 大東町	9m
5位	みかけ石	舞川	6m
6位	夫婦石（めおといわ）	千厩町	5m
7位	月光石（げっこういし）	舞川	3.5m
8位	続石神社（つづきいしじんじゃ）	大東町	3.3m
9位	正現石（まさげんいし） 重箱石（じゅうばこいし）	舞川 千厩町	3m
10位	屏風石（舞川）（びょうぶいし） 篭石（かごいし）	舞川	2.7m

※巨石の「高さ」をランキングで表しています。
※同所に複数の石がある場合、最も高いものを掲載しています。

明治時代以降、初めての計測！？

今年3月に、“鳥海三名石”がインターネットサイト『日本の奇岩百景＋』(※1) に県内で初めて登録され、全国的にも有名となりましたが、同行者の3人曰く「**立石は『鳥海風土記』（明治5年）の時代から計測をしていない**」とのこと。こんな話を聞いたら**計測しないわけにはいきません！**早速、同行者の皆さんのサポートのもと、計測を行いました。(※2)

鳥海風土記の記述では「**高三丈壱尺（約9m）、廻六丈三尺（約19m）**」とされていますが、今回の計測結果は・・・**高さ9m、廻り29.7m**でした！

鳥海風土記の「廻約19m」に対して10m以上も記録に差があった理由については、「当時の計測部分と今回の計測部分が違う場所なのでは？」という予想が出ましたが…真相は謎のままです。

※1：全国各地にある奇岩や奇怪な名称の岩石などを選定し、掲載しているサイト
※2：計測は許可のもと行いました。無断で石に登る行為はお止めください

【写真】
①：上からの眺めは・・・怖くて見えません。
②：降りるときも慎重に！
③：しっかり計測しています。

idea
発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415 ホームページ:https://www.center-i.org/ メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

おしらせ

講座 まちづくりコーディネーター養成講座

「まちづくり」とは何なのか、その考え方に触れつつ、まちづくりを担う人が知っておきたい項目(①地域福祉概論、②話し合いの仕方、③公共交通、④事業の考え方、⑤事務局のおしごと)について、全5回の講座を行います。

日時:①2019年7月27日 ※終了
②9月7日、③9月28日、④10月26日、⑤11月9日 ※各回土曜9時30分～開催
場所:なのはなプラザ 4階会議室
参加料:2,000円(全5回分)
主催:いちのせき市民活動センター
問合＆申込:0191-26-6400
※要申し込み

コンサート JAZZ night at HIRASAWA vol. 4

日本ジャズ界屈指の正統派ギタリスト 岩見淳三さんと、パートナーのYAYOIさんが、スタンダードから日本の歌まで幅広いレパートリーを独自のアレンジで紡ぐギター＆ボーカルデュオの世界をお楽しみください。

日時:2019年9月11日(水)
18時開場 18時30分開演
場所:HIRASAWA F. MARKET
(一関市弥栄字膳棚57)
料金:2,000円 1ドリンク付き
(当日は2,500円)
主催:HIRASAWA F. MARKET
問合:090-6252-1895(熊谷)

講座 森と木のアカデミー連続講座 第4回 林内作業車講習会

森林にて、林内作業車を使った搬出方法、および伐倒から搬出までの一連の工程の実技演習を行います。年齢・経験不問。女性や未経験者の方も大歓迎です！

日時:2019年9月28日(土)9時～16時
(集合時間は8時45分)
場所:一関市舞川十三区公民館
持物:野外活動ができる服装と装備、弁当、飲み物
参加費:無料
※9月27日までに要事前申し込み
主催:いちのせき薪の会
申込＆問合:090-6997-6026
iwannociw7@gmail.com(菅原)

講座 集落参観日

地域づくり活動のマンネリ化や地域の抱える課題解決のために、地域外の視点を取り入れたいという集落と、市内のローカルな魅力に興味のある人、他地域の事例を知りたいという人などをマッチングする企画、「集落参観日」。今年度は大東町猿沢の「峠自治会」を参観します。参加者を10月17日(木)まで募集しています。

日時:2019年10月27日(日)9時～14時
場所:大東町猿沢「峠自治会」地内
参加料:1000円(ランチ交流会費用込み)
主催:いちのせき市民活動センター
問合＆申込:0191-26-6400
※要申し込み

講座 自治会長サミット vol.9

自治会運営に携わるご本人から皆さんへ、生の声で"自治会運営のコツ"をご紹介いただきます。今回は、人口・世帯数が多いため民区を2つに分区した山目五民区さん(一関)、住民が楽しく生き生きと暮らすために様々なアイディアにチャレンジする岩ノ下自治会さん(東山)の取り組みを発表いただきます。

日時:2019年10月10日(木)
13時30分～16時30分
場所:川崎市民センター
対象:市内自治会長又は準ずる役職員の方
参加料:無料
主催:いちのせき市民活動センター
問合＆申込:0191-26-6400

コンサート 中学2年生に贈る 新垣勉 おしゃべりコンサート 9

テノール歌手の新垣勉さんは、生後間もなく不慮の事故で両目を失明し、両親の離別や祖母の他界により14歳の若さで天涯孤独の身となりました。現在は逆境を乗り越え、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えるコンサートを全国で行っています。大人のご来場も大歓迎です。

日時:2019年11月13日(水)
13時開場 14時開演
場所:一関文化センター大ホール
入場料:一般3,000円、60歳以上2,000円、福祉券1,000円
主催:中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会
問合:090-5231-4333(吉田)

まちの写真展 スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名 「地域を見守る思い出のタヌキ」

藤沢町第10区自治会花壇の中央に佇むタヌキの焼き物。これは今から25年ほど前、現自治会長さんのお子さん達が藤沢野焼祭のときに制作した、思い出がつまった作品で、長年第10区のオブジェとして地域を見守ってくれています。

Q＆A みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

NPO法人を設立するにはどれくらいの時間がかかるの？

NPO法人を立ち上げるには最短でも3か月かかります。NPO法人はその他の法人と比べて提出書類が多く、「縦覧」という期間もあるため、設立までに時間がかかることがデメリットとも言えます。

設立発起人会から設立認証まで短くても3か月くらいの期間を要することになり、書類の訂正などがあると、さらに時間がかかります。半年程度の余裕を持って準備を進めることをおすすめします。